

タルグレチン[®]を 服用される方へ

監修

岡山大学 名誉教授 岩月 啓氏 先生

国際医療福祉大学医学部 皮膚科学 教授 菅谷 誠 先生

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 病態医療科学分野 教授 内丸 薫 先生



はじめに

この冊子は、タルグレチン[®]（一般名：ベキサロテン）を服用される患者さんに、病気と主な副作用および服用中に注意していただきたいことなどについて、よく知っていただくためのものです。

タルグレチン[®]は、皮膚T細胞性リンパ腫と皮膚に症状のある成人T細胞白血病リンパ腫の進行を抑えるお薬です。

安心して治療を受けていただくために、ぜひ、この冊子をご一読ください。そしてご不明な点や疑問点がありましたら、主治医にご相談ください。

もくじ

皮膚T細胞性リンパ腫とは？	3
成人T細胞白血病リンパ腫とは？	5
タルグレチン [®] とは？	6
タルグレチン [®] の服用方法	8
タルグレチン [®] の主な副作用と対策	10

皮膚T細胞性リンパ腫とは？

皮膚T細胞性リンパ腫とは？

皮膚T細胞性リンパ腫は、がん化したT細胞が主に皮膚で増殖する皮膚の悪性腫瘍で、代表的なものとしては、菌状息肉症やセザリ－症候群などがあります。

皮膚T細胞性リンパ腫の多くは悪性度が低く、数年から数十年かけてゆっくりとした経過で進行していきます。しかし、病気の段階によっては、急激に進行する場合もあります。

症状には個人差があり、さまざまな皮膚症状があらわれます。淡い紅色や褐色などさまざまな色調の湿疹によく似た発疹(紅斑)、少し盛り上がりのある症状(局面)などがあります。

数年から数十年かけて腫瘤期へ移行すると、腫瘤があらわれるようになります。さらに症状が進行すると、皮膚症状のほかにリンパ節、血液、臓器にもがん化したT細胞がみられることがあります。

皮膚T細胞性リンパ腫の治療

皮膚T細胞性リンパ腫は、病変が皮膚のみの場合、あるいはがん化したT細胞が血液にも認められる場合など、患者さんによって病変の広がり異なります。そのために治療は患者さんごとに異なります。一般的に、下の表に示した局所療法と全身療法を組み合わせた治療を行います。

腫瘍性病変の範囲が限られている場合は、放射線療法が有用ですが、広範囲に及ぶと化学療法が行われることが多くなります。また、病気の進行の程度や予後の予測、合併症、年齢などさまざまな要因を加味して、治療方法が検討されます。

■ 菌状息肉症およびセザリー症候群の主な治療法

局所療法	全身療法
● 外用ステロイド剤 ● 紫外線療法 (PUVA、ナローバンド UVB) ● 放射線療法	● 免疫療法 ● 分子標的療法 ● ビタミンA誘導体 ● 化学療法

成人T細胞白血病リンパ腫とは？

成人T細胞白血病リンパ腫とは？

成人T細胞白血病リンパ腫は、白血球の1つであるT細胞にHTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）が感染し、がん化した細胞が増殖することで発症する血液のがんです。しかしながら、HTLV-1に感染しても必ず成人T細胞白血病リンパ腫を発症するわけではありません。

成人T細胞白血病リンパ腫には急性型、リンパ腫型、慢性型、くすぶり型という4つの病気の型（タイプ）があり、それぞれで病気の進行度合いが異なります。

成人T細胞白血病リンパ腫を発症すると白血球増多、皮膚病変、リンパ節腫脹、高カルシウム血症、高LDH血症、肝腫、脾腫、日和見感染といった症状が現れます。そのうち皮膚の症状はおよそ半分の患者さんに現れます。

成人T細胞白血病リンパ腫の治療

成人T細胞白血病リンパ腫には急性型、リンパ腫型、慢性型、くすぶり型という4つの病気の型（タイプ）があり、その型や症状、年齢などにより治療方法が異なります。抗がん剤を使用する治療が主なものですが、専門医とよく相談しながら治療方法を決めることが大切です。

タルグレチン[®]とは？

タルグレチン[®]とは

- タルグレチン[®]は、ビタミンAに似た化合物を有効成分とするカプセル製剤です。がん細胞(腫瘍)の増殖を抑える作用ぞうしょくをもっており、これにより症状を改善します。
- タルグレチン[®]の治療は、皮膚T細胞性リンパ腫の患者さんと皮膚に症状のある成人T細胞白血病リンパ腫の患者さんに対して行われます。
- タルグレチン[®]の服用量(カプセル数)は体表面積(体重と身長から算出)をもとに、年齢や症状、副作用の程度などを考慮して決められます。詳しい治療内容については主治医にご確認ください。

タルグレチン[®]を服用できない方

- 妊娠している、または妊娠している可能性がある方
- 肝臓に重い障害のある方
- 過去にタルグレチン[®]カプセルに含まれる成分により、アレルギー症状(発熱、発疹、呼吸困難など)があらわれたことがある方
- ビタミンA製剤を投与中の方
- ビタミンA過剰症の方

タルグレチン®服用に注意が必要な方

以下に該当する方は、服用前に主治医に相談してください。

■妊娠する可能性がある方

タルグレチン®服用前に妊娠していないことを確認し、服用開始の1カ月前から服用中および終了後1カ月は避妊してください。

■経口避妊薬を使用している方

タルグレチン®服用中は、経口避妊薬の効果が低下する可能性があります。適切な避妊方法については主治医に相談してください。

■授乳中の方

タルグレチン®服用中は、授乳について主治医に相談してください。

■膵炎にかかっている、または膵炎にかかったことがある方

■膵炎のリスク（胆石、脂質異常症、糖尿病、アルコールの過剰摂取など）がある方

■肝臓に軽～中等度の障害のある方

■以下の治療をしている方

薬や治療法		タルグレチン®服用により 起こる可能性がある作用
名前	種類	
アトルバスタチン シンバスタチン	脂質異常症治療薬	アトルバスタチン、シンバスタチンの作用が弱まる
ミダゾラム	鎮静薬	ミダゾラムの作用が弱まる
インスリンなどの 糖尿病治療薬	糖尿病治療薬	糖尿病治療薬の作用が強まる
PUVA療法、 UVB療法など	紫外線療法	光線過敏症を発現するおそれがある

タルグレチン[®]の服用方法

1日1回、決められた食事の後に服用

- タルグレチン[®]は、1日1回、毎日、決められた食事の後に、水かぬるま湯で服用してください。
- 服用時には、PTPシートから取り出して服用してください。
- カプセル全体をかまずに飲み込んでください。

■タルグレチン[®]の服用

主治医や薬剤師と相談して、○印を記入しましょう。

朝 ・ 昼 ・ 夜

食 後



こんなとき、どうする？

タルグレチン[®]の服用を忘れてしまった

その日のうちに服用忘れに気づいたのであれば、次の食事の後にタルグレチン[®]を服用してください。翌日は、決められた食事の後に、処方通りの用量のタルグレチン[®]を服用してください。翌日以降に服用忘れに気づいた場合は、服用忘れ分はそのままにし、1日に2回分を服用することは、絶対にしないでください。

タルグレチン[®]を多く服用してしまった

副作用があらわれる可能性がありますので、すぐに主治医や薬剤師に連絡してください。

他の病院を受診したり、薬を購入する

タルグレチン[®]治療中に、他の薬(ビタミン剤や健康食品を含む)を服用することにより、どちらかの効果が弱くなったり、強くなったりする可能性があります。

そのため、他の病院を受診したり、薬局で薬(ビタミン剤や健康食品を含む)を購入するときは、タルグレチン[®]を服用していることを伝えてください。

食事がとれなかった

食事がとれなかった場合は、普段服用している時間にタルグレチン[®]を服用してください。

タルグレチン[®]の主な副作用と対策

早期に発見し、重症化を防ぐために

副作用を早期に発見し、適切に対処して重症化を防ぐことはとても重要であり、ひいてはタルグレチン[®]治療の継続にもつながります。気になる症状があらわれたときは、主治医や薬剤師に相談しましょう。

以下にタルグレチン[®]の主な副作用を紹介します。ただし、副作用には個人差があるため、これら以外の副作用があらわれることもあります。



胎児への影響

タルグレチン[®]は、動物実験で胎児に悪影響を及ぼしたり(催奇形性)、精子形成に異常をきたすことが報告されています。そのため、妊娠する可能性のある女性ならびに男性は、以下の期間、避妊してください。なお、適切な避妊方法については主治医に相談してください。

もし、タルグレチン[®]服用中に妊娠したかもしれないと思われた場合は、すぐに主治医に連絡してください。

■ 避妊方法と期間

	妊娠する可能性のある女性	男 性
推奨される避妊方法	●子宮内避妊器具、ペッサリー ●経口避妊薬＋他の避妊方法 (タルグレチン [®] により経口避妊薬の効果が弱まる可能性があるため)	●コンドーム
避妊の期間	タルグレチン [®] 開始前1カ月以上～終了後1カ月	タルグレチン [®] 開始～終了後3カ月
妊娠検査	開始前：1週間以内 服用中：定期的に実施	—

タルグレチン®の主な副作用と対策

ビタミンA 過剰症

タルグレチン®はビタミンAに似たはたらきをもっているため、ビタミンA製剤と併用することにより、ビタミンA過剰症と類似した症状があらわれることがあります。

そのため、タルグレチン®服用中は、ビタミンA製剤を服用しないでください。また、ビタミンAサプリメントの摂取は控えてください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 頭痛
- 髪や眉毛の脱毛
- 皮膚の荒れ

脂質異常症

タルグレチン®服用中、血液中のトリグリセリド(TG)やコレステロール(LDL)が上昇することがあります。そのため、定期的に血液検査が行われ、脂質の状況が確認されます。

また、脂質の上昇を防ぐためにも、以下のような食事、運動などを習慣にしましょう。

脂質が上昇した場合は、脂質異常症治療薬などにより治療が行われます。

■脂質の上昇を防ぐ生活習慣の例

- 禁煙し、受動喫煙を回避する
- 過食を抑え、標準体重を維持する
- 肉の脂身、乳製品、卵黄の摂取を抑え、魚類、大豆製品の摂取を増やす
- 野菜、果物、未精製穀類、海藻の摂取を増やす
- 食塩を多く含む食品の摂取を控える(6g/日未満)
- アルコールの過剰摂取を控える(25g/日以下)
- 有酸素運動を毎日30分以上行う など

動脈硬化性疾患予防のための脂質異常症治療ガイド2013年版

膵炎

急性膵炎では、激しい上腹部の痛み(みぞおちから左上腹部)や背中の痛みのほか、吐き気、嘔吐、お腹が張る、お腹にあざができるなどの症状がみられます。痛みの程度は、軽い鈍痛から、じっとしていられないほどの激痛までさまざまです。

タルグレチン[®]服用中は、定期的に血液検査が行われ、膵酵素のほか、急性膵炎と関連が示されている脂質が確認されます。

また、膵炎発症のリスクとなるため、過度の飲酒は控えてください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 強い腹痛
- 吐き気
- 喉が渇く
- 油っぽい下痢が出る
- 背中の痛み
- 嘔吐
- 尿量が増える
- お腹が張る
- 体重が減る
- 皮膚が黄色くなる

タルグレチン[®]の主な副作用と対策

甲状腺機能の低下

タルグレチン[®]服用中、甲状腺機能が低下することがあります。しかし、症状が極めて軽いなど、症状に気づくことが難しい場合があります。そのため、定期的に血液検査が行われ、甲状腺ホルモンの分泌量などが確認されます。

甲状腺機能が低下した場合は、甲状腺ホルモン剤などにより治療が行われます。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 疲れやすい
- 体重が増える
- かすれ声
- まぶたが腫れぼったい
- いつも眠たい
- 脱毛
- 寒がり
- 便秘

低血糖

タルグレチン[®]は、糖尿病治療薬の血糖降下作用を増強することが報告されています。そのため、糖尿病治療中の患者さんでは、低血糖の発現に注意してください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- お腹がすく
- 疲れやすい
- 意識の低下
- 冷汗が出る
- 手足のふるえ
- 血の気が引く
- けいれん

白血球減少症、好中球減少症、貧血

タルグレチン[®]服用中、白血球、好中球およびヘモグロビン(Hb)が減少することがあります。また、貧血があらわれることがあります。そのため、定期的に血液検査が行われます。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 突然の高熱
- 発熱
- 頭痛
- 息切れ
- 寒気
- 体がだるい
- 耳鳴り
- 喉の痛み
- めまい
- 動悸

肝不全、肝機能障害

タルグレチン[®]服用中、肝不全、肝機能障害があらわれることがあります。そのため、定期的に血液検査が行われ、肝酵素などが確認されます。自分で健康食品やサプリメントを摂取する場合は、必ず医師にその内容を伝えてください。

また、肝機能障害のリスクとなるため、過度の飲酒は控えてください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 意識の低下
- 尿の色が濃くなる
- 便に血が混じる(鮮紅色～暗赤色または黒色)
- 白目が黄色くなる
- お腹が張る
- 疲れやすい
- 吐き気
- 皮膚が黄色くなる
- 急激に体重が増える
- 体がだるい
- 食欲不振
- 体がかゆくなる
- 血を吐く
- 力が入らない

タルグレチン[®]の主な副作用と対策

光線過敏症

タルグレチン[®]服用中、光線過敏症(かゆみ、発疹や水ぶくれ、赤く腫れる、色素沈着など)があらわれることがあります。

そのため、強い太陽光や病院以外で人工紫外線に長時間あたることは避けてください。外出時は、長袖の衣服を着て、帽子、手袋、日傘などを活用してください。また、肌が出ている部分には、日焼け止めを塗りましょう。



次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 日光のあたる部位に痒みや痛みを伴う発疹や、水ぶくれができやすい。
- 日焼けをした場所が傷痕になったり、色がなかなか消えない。

白内障

タルグレチン[®]服用中、白内障があらわれることがあります。自覚症状があらわれた場合は、主治医に申し出てください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 視力の低下 ● かすんで見える ● まぶしい
- 眼鏡で視力が出ない

感染症

タルグレチン[®]服用中、肺炎、敗血症などの感染症があらわれることがあります。自覚症状があらわれた場合は、主治医に申し出てください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 発熱
- 寒気
- 体がだるい

間質性肺疾患

タルグレチン[®]服用中、間質性肺疾患があらわれることがあります。自覚症状があらわれた場合は、主治医に申し出てください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 咳
- 息切れ
- 息苦しい
- 発熱

タルグレチン[®]の主な副作用と対策

血栓塞栓症

タルグレチン[®]服用中、肺塞栓症、心筋梗塞、脳血管発作などの血栓塞栓症があらわれることがあります。自覚症状があらわれた場合は、主治医に申し出てください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 吐き気
- まひ
- 押しつぶされるような胸の痛み
- 嘔吐
- 激しい頭痛
- 突然の息切れ
- お腹が張る
- 脱力
- 胸の痛み
- 激しい腹痛
- 足の激しい痛み

横紋筋融解症

タルグレチン[®]服用中、横紋筋融解症があらわれることがあります。自覚症状があらわれた場合は、主治医に申し出てください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 手足のこわばり
- 脱力感
- 尿が赤褐色になる
- 手足のしびれ
- 筋肉の痛み

重度の皮膚障害

タルグレチン[®]服用中、重度の皮膚障害があらわれることがあります。皮膚だけでなく、粘膜(口や目)などに異常があらわれた場合は、主治医に申し出てください。

次のような症状があらわれた場合は、すぐに主治医に伝えてください

- 発熱
- 皮膚・粘膜のただれ
- 全身の発赤
- 水ぶくれ

緊急時の連絡先

医療機関名

主治医名

電話番号

かかりつけ薬局等



株式会社

ミノファージン製薬